

令和 4 年度三重県周産期医療ネットワークシステム運営研究事業報告

三重県の周産期医療を維持・改善する目的で本事業を平成 20 年度より行っており、県よりご支援頂き感謝申し上げますとともに令和 4 年度の事業報告を以下に示します。

1. 三重県生涯教育特別研修セミナーの実施

第 92 回 三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：2022 年 4 月 14 日（木）19：00 ～ 20：00

場所：三重大学医学部附属病院病 12 階三医会ホール＋ZOOM による WEB 配信

【特別講演】中島 彰俊先生（富山大学学術研究部医学系産科婦人科学教室教授）

「胎盤から見た妊娠高血圧症候群～その発症とオートファジーの役割～」

参加人数：72 名

第 93 回 三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：2022 年 5 月 19 日（木）18：00 ～ 19：00

場所：三重大学医学部附属病院病 12 階三医会ホール＋ZOOM による WEB 配信

【特別講演】杉山 隆 先生（愛媛大学医学部附属病院長・愛媛大学大学院医学系研究科産科婦人科学教授）

「子宮内環境と児の将来-先制医療の視点より-」

参加人数：64 名

第 94 回 三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：2022 年 6 月 2 日（木）19：00 ～ 20：00

場所：三重大学医学部附属病院病 12 階三医会ホール＋ZOOM による WEB 配信

【特別講演】森松 博史先生（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科麻酔・蘇生学講座教授）

「麻酔科医から見た無痛分娩」

参加人数：90 名

第 95 回 三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：2022 年 10 月 27 日（木）19：00 ～ 20：00

場所：三重大学医学部附属病院病 12 階三医会ホール＋ZOOM による WEB 配信

【特別講演】辻 俊一郎先生（滋賀医科大学 産科学婦人科学講座 准教授）

「帝王切開癒痕症候群の病態生理とその治療」

参加人数：61 名

第 96 回 三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：2023 年 1 月 19 日（木）19：00 ～ 20：00

場所：三重大学医学部附属病院病 12 階三医会ホール＋ZOOM による WEB 配信

【特別講演】梶山 広明先生（名古屋大学 医学部産婦人科 教授）

「私が実践する論文作成のポイント ～生存解析の基礎知識を踏まえて～」

参加人数：47 名

第 97 回 三重県生涯教育特別研修セミナー

日時：2023 年 2 月 9 日（木）19：00 ～ 20：00

場所：三重大学医学部附属病院病 12 階三医会ホール＋ZOOM による WEB 配信

【特別講演】吉原 弘祐先生（新潟大学大学院医歯学総合研究科 産婦人科 教授）

「TRに基づいた卵巣がんの新しい治療戦略」

参加人数：40名

セミナーは、若手医師のみならず、病院・診療所のベテラン医師の知識の向上に寄与した。

2. オープンシステムの継続

引き続きオープンシステムを継続しており、三重大学において、現在19施設23名の産科医が登録している。

産科オープンシステム利用による診療手当(2022年4月～2023年3月)は以下のとおりである。

三重大学 3,249,385円(患者 47名)

産科オープンシステム登録施設に患者様用のパンフレット・冊子を配布し、改めて産科オープンシステムのメリットと利用を呼び掛けている。

3. 三重県下共通救急母体搬送紹介用紙の作成および実施

本共通紹介用紙を用いる目的は以下のとおりである。県下の母体搬送症例の情報を収集し、どのような疾患が多いか、地区により疾患の種類に相違があるのか、搬送先を探し始めてから搬送先が決定するまでどのくらい時間がかかるか、などを検討することにより、今後の三重県下の周産期医療ネットワークシステムの改善に役立てようとするものである。

具体的には、本事業により母体救命の症例、早産の症例などの搬送の流れを把握することにより、現在の県下の5つの基幹センター(三重中央医療センター、三重大学、市立四日市病院、県立総合医療センター、伊勢赤十字病院)による県下各地区ゾーンディフェンス体制の変更が必要か否かを検討することができる。また疾患の種類により搬送元施設に偏りがある際には、医療者側の標準医療の確認、教育というステップを踏む必要がある。そのためにも上記1で述べたような研修会や症例検討会などを併せて行うことが三重県全体の周産期医療のレベルアップに寄与することができると考えられる。

以上の情報をデータベースとして保存するためにコンピューターを事務局である大学に設置した。本紹介用紙は、平成20年11月に県下の妊婦を扱う全施設に送付し、本紹介用紙を用いた搬送が行われている。現在母体搬送データベースの作成を継続しており、県下の母体搬送の向上のための対策を講じる予定である。

また、県下の母体搬送先をスムーズに決定するために、周産期母子医療センターと産婦人科医会及び消防機関等と調整を行った。現在、搬送依頼を受けた基幹病院が中心となって搬送先を決定し、搬送元および救急隊に迅速に連絡をとるようにしている。これにより、各産科医療機関からの搬送先についての相談などに対し、以前より短時間で決定することが可能となった。

2022年の母体搬送は235例(三重大学に届いている紹介用紙の枚数であり、実数はもう少し多いと想定される)あり、搬送症例は約50%が切迫早産や前期破水症例で約5%が母体救命の搬送であった。搬送先決定までの所要時間は平均すると約10分であるが、ほとんどが5分以内で決定されていた。最初に搬送依頼を受けた病院が受け入れ不可能な場合に、搬送元の施設が搬送先を探している場合があり、搬送先を決定するまでに時間を要す場合がある。最初に搬送依頼を受けた基幹病院の医師が責任を持って受け入れ先を決定するよう、周知を図っている。

4. 三重県周産期症例検討会の開催

2012年から4ヶ月に1度、三重県における周産期センターを有する基幹病院（三重大学医学部附属病院、三重中央医療センター、市立四日市病院、県立総合医療センター、伊勢赤十字病院の5施設でスタート、現在は桑名市総合医療センターを含めた6施設）において、実際の診療にあたっている産科側と新生児側の医師が集まり、妊娠22週以降の死産と新生児死亡（生後28日以内の死亡）、神経予後不良（見込み）例を、死因、病態、治療との関係、再発防止策等の検討を行っている。また、検討会には、三重県医師会会長、行政代表として三重県医療保健部医療政策総括監と三重県医療保健部地域医療推進課にも参加していただいている。2012年1月～2021年12月の10年間で、妊娠22週以降の死産：167例、新生児死亡：106例、神経予後不良例：269例であった。三重県の周産期死亡率は、2016年は5.6と全国で最も悪かったが、2019年には2.0と全国で最も低くなった。その後も2020年が2.9、2021年が2.8と高水準で推移している。検討会の開催が、三重県内の産婦人科同士の連携を強化し、行政との連携も密となった成果と考える。ひきつづき、検討会の開催を重ね、妊産婦が安心・安全に出産できる体制を維持していく。

5. 三重県内の妊婦のサイトメガロウイルス抗体スクリーニングについて

平成25(2013)年から継続している妊婦CMV抗体スクリーニングを継続の上、令和4(2022)年より新生児尿CMVスクリーニングを開始した。三重県内の産婦人科3施設で試験運用を行い、うち1施設では実運用に移行することができた。160例に新生児尿CMVスクリーニング検査を行い、2例が先天性CMV感染児であった(1,000児あたり13例の発生)。その2例は双胎児であり、両児とも無症候性感染児であった。今後は妊婦CMV抗体スクリーニングから新生児尿CMVスクリーニングへ段階的に移行していき、新生児尿CMVスクリーニングの有効性を検証していく予定である。

6. TV会議システムについて

2013年から三重大学と県内の基幹病院等にインターネットを用いたリアルタイムテレビ会議システムを導入し、TVカンファレンスを1～2回/週、講演会：5～6回/年開催している。（現在TV会議システムを導入している施設は桑名市総合医療センター、県立総合医療センター、市立四日市病院、三重大学、三重中央医療センター、済生会松阪総合病院、伊勢赤十字病院、榊原記念病院、ヨナハ丘の上病院である。）県下の若手医師が研修する全ての病院で、このシステムを介して若手医師・復職後の女性医師の教育が可能となり、またカンファレンスを介して県下の治療方針の統一化が可能となった。これまでは一度にTVカンファレンスに参加できる施設は大学を含め4施設であったが、2016年からは全ての施設が一度に参加する事が可能となり、より一層教育効果が上がっていると考えられる。2021年からは、これまで三重大学内で開催していた研究に関するカンファレンス（1回/週）についても、TV会議システムに接続して開催している。大学で行っている周産期を含めた研究についても、大学以外の施設と共有することが可能となった。